

# 『一心千里』

永田 隆一

走っていたら、  
見えてくる



第131回

「ザ・ネーム・オブ・ザ・ゲーム」は、ビジネスシーンでお洒落に使われます。最も重要なこと、成功するための重要な要因といった意味です。

「The name of the game is making money」なら「重要なことは儲けることだ」となります。

人間関係では、錯覚イリュージョン(illusion)があることを考えることが重要です。手品のイリュージョンは、この錯覚から来ています。

人間は日々、勘違いや錯覚で生きていることがあるのだよ。「いきなり錯覚の話ですか、亮太

さん」「クイズだ。君の好みの女性が、すれ違いざまに雄介君の顔を見ながらにっこり微笑んだと

だ。女性が微笑みかけるのでコーヒーショップへ誘ったら、これからは英語を身につけなければな

「雄介君、仕事でも錯

杯の時は、紐ならば長さ

「……雄介さんとやら、良い話だ。しかし、人にもを訪ねる時はタイムリも大切だよ。トイレを探している人に、なぜはならないぜ。もうしてしまつかもしれないし、多目的トイレを多目的に使う人もいるぞっじやないか(笑)」

「ザ・ネーム・オブ・ザ・ゲームは、お客様の競争相手にお客様が勝てる」から発想して、販売戦略を練ること、そして、時には錯覚も活用することで、成功する確率を大いに高めることも可能となります。

## ザ・ネーム・オブ・ザ・ゲームは成功要因 ビジネスシーンでは時に錯覚も活用

しよう。さて、その女性はずせ微笑んだか」「面白そうですね。きっと、僕に好意を抱いてくれた」「うん、前向きでなかなかよるしい」。

「しかし、口元にケチヤップが付いていたのかもしれない。君のすぐ後ろに友人がいたのかも知れない。僕が大学生の時に、実際に経験したこと

「友人の1人がローンを組んで買わされた」教材は役に立ったのですか」「カセットテープが50巻あったぞうだが、1巻で挫折した」「ヒエー、ほんとに詐欺ですね」。

「大将も何か一杯飲んで下さい」「亮太さん、かたじけない。ビールをゴチになります」大将。なぜビールなのですか」「わしはビール党なんだ」「日本酒や焼酎では

ゲームは、その本質的な意味が名前として付いている場合が多く、そこからビジネスでは成功要因という意味で「ザ・ネーム・オブ・ザ・ゲーム」を使います。また「数字

はワソをつきませんが、ウソつきは数字を使います」。相手が錯覚するのは自己責任と、前提や条件を変えることで、数字がその説得力を大きく変えることがあります。

「決して詐欺ではない。勘違いと錯覚だね。きれいなお姉さんが親身に英語の必要性を説明してくれて、ありがたいな、頑張ってみようかな、もしかしたらまた会ってもらえるかもしれない、淡い期待もあったかもしれない」。

「調節できるからと説明した。少年はとても喜んで帰っていった。どうだい」「すばらしい」。

「……雄介さんとやら、良い話だ。しかし、人にもを訪ねる時はタイムリも大切だよ。トイレを探している人に、なぜはならないぜ。もうしてしまつかもしれないし、多目的トイレを多目的に使う人もいるぞっじやないか(笑)」

「ザ・ネーム・オブ・ザ・ゲームは、お客様の競争相手にお客様が勝てる」から発想して、販売戦略を練ること、そして、時には錯覚も活用することで、成功する確率を大いに高めることも可能となります。

「……雄介さんとやら、良い話だ。しかし、人にもを訪ねる時はタイムリも大切だよ。トイレを探している人に、なぜはならないぜ。もうしてしまつかもしれないし、多目的トイレを多目的に使う人もいるぞっじやないか(笑)」

「ザ・ネーム・オブ・ザ・ゲームは、お客様の競争相手にお客様が勝てる」から発想して、販売戦略を練ること、そして、時には錯覚も活用することで、成功する確率を大いに高めることも可能となります。